

市民アンケートの実施結果

1. 市民アンケートの実施概要

(1) 生駒市のみどりに関する大人向けアンケート（16歳以上）

目的	市民の本市の緑とのかかわりの状況、緑に対するニーズや満足度等の把握
対象	市内在住者 3000 人（16 歳以上の市民から無作為抽出）
方法	郵送によるアンケート表配布、紙もしくはウェブフォームによる回答
実施時期	令和 6 年 12 月 26 日～令和 7 年 1 月 31 日
回収数	1,062 票（回答率 約 35%）

(2) 生駒市のみどりに関する子ども向けアンケート（小中学生）

目的	本市の公園や里山などのみどりに関する子どもの利用状況やニーズの把握	
対象	生駒市立小・中学校に在籍する全児童（6337 人）、全生徒（2970 人）	
方法	市立小中学校の全児童・生徒が使用するタブレット端末への配信、ウェブフォームによる回答	
実施時期	令和 6 年 12 月 9 日（月）～令和 6 年 12 月 23 日（月）	
回収数	高学年（小学 4、5、6 年、中学生）	1,927 票
	低学年（小学 1、2、3 年）	1,512 票
	合計	3,439 票（回答率 約 37%）

2. 市民アンケートの目的

市民の緑との関わりや関心度合は人によって異なるため、計画改定においては市民の緑への興味や関わり
の度合いに応じて複数の方法で意見聴取を行っている。

市民アンケートは、大人・子ども※それぞれ、広く市民一般を対象として実施した。緑への意識や関わりの
現状、緑に対するニーズを把握するとともに、関心はあるが関わっていない市民がどの程度存在し、何が障
壁になっているかなど、市民と緑とのかかわりの可能性について把握することを目的としている。

3. 設問項目

(1) 大人向けアンケート

問	カテゴリ	設問項目
問1	回答者属性	年代
問2		性別
問3		世帯構成
問4		世帯構成（子ども）
問5		職業
問6		居住年数
問7		居住地（町名）
問8	生駒市のみどりについて	生駒市の花や緑で思い浮かべるもの
問9		花や緑の存在を感じたり、ふれたりする場所
問10		花や緑の増減
問11		花や緑に対する満足度、実感している効果
問12		花や緑の役割として期待すること
問13-1	生駒市の公園について	大きな公園に期待すること
問13-2		大きな公園の利用頻度
問13-3		大きな公園の利用目的
問13-4		よく利用する大きな公園
問13-5		大きな公園を利用しない理由
問13-6		大きな公園に対する不満
問14-1		小さな公園に期待すること
問14-2		小さな公園の利用頻度
問14-3		小さな公園の利用目的
問14-4		よく利用する小さな公園
問14-5		小さな公園を利用しない理由
問14-6		小さな公園に対する不満
問14-7		公園への移動手段
問14-8		公園への同伴者
問15-1	緑とのかかわり	活動への参加状況、参加意欲、興味
問15-2		企画・主催、参加の具体的内容
問15-3		活動継続の課題
問15-4		活動にかかわっている動機
問15-5		活動に参加できない理由
問15-6		参加意欲が無い理由
問16	自由記述	自由記述

(2) 子ども向けアンケート

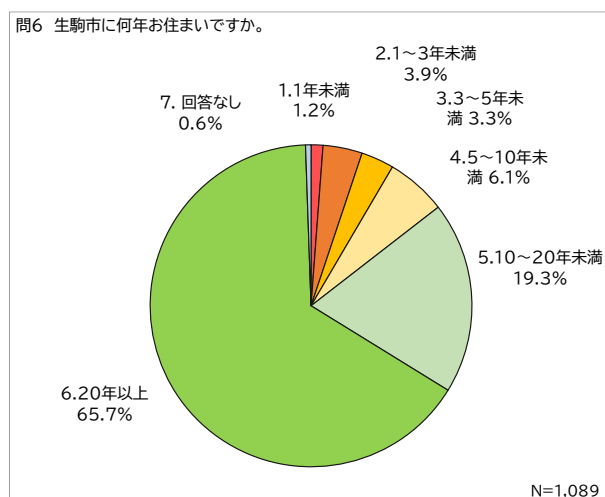
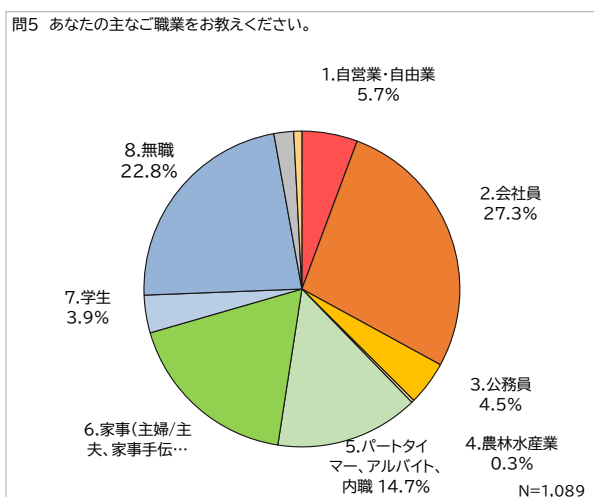
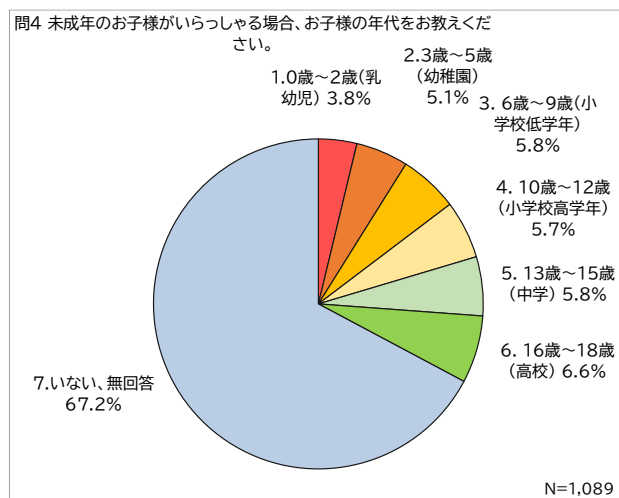
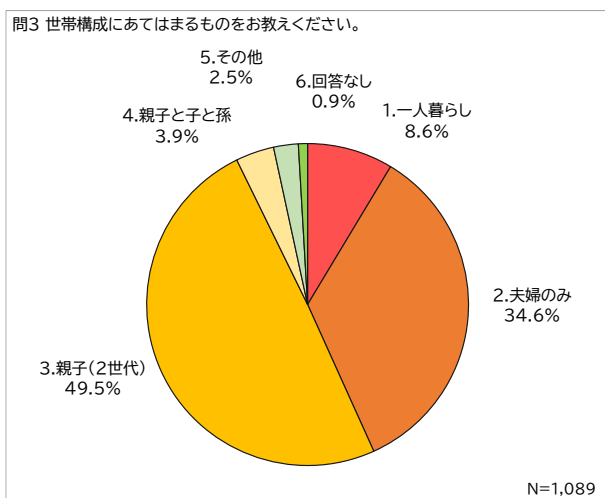
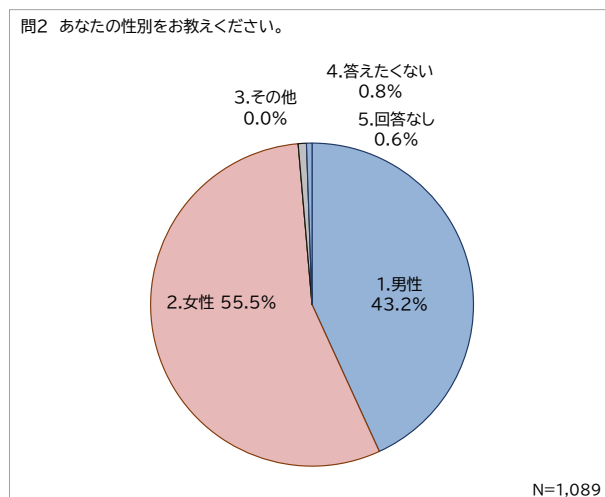
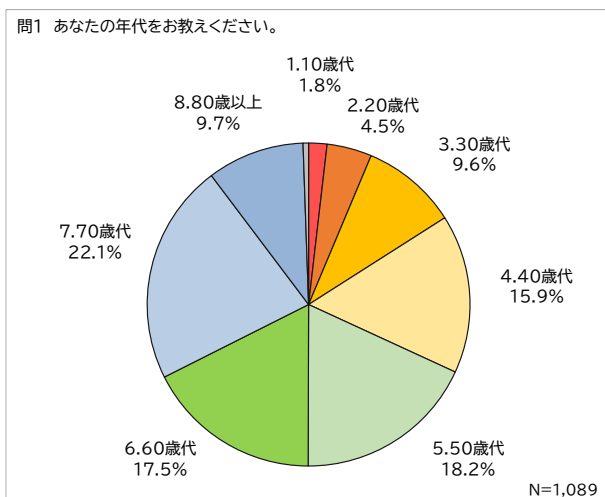
問	カテゴリ	設問項目
問1	外遊びについて	外遊びをよくするところ
問2	公園について	公園の利用頻度
問3		公園の利用目的
問4		よく利用する公園、一番好きな公園
問5		公園への移動手段
問6		公園への同伴者
問7		公園でやってみたい、もっとできたらよいと思うこと
問8		できたらよいと思うことができない理由
問9	自然について	森や山、川などで遊ぶ頻度
問10		森や山、川などの自然の中でやってみたいこと
問11	緑とのかかわり	緑に関する活動への参加状況、参加意欲
問12		生駒市で好きな緑
問13	回答者属性	学校名、学年

4. 結果概要

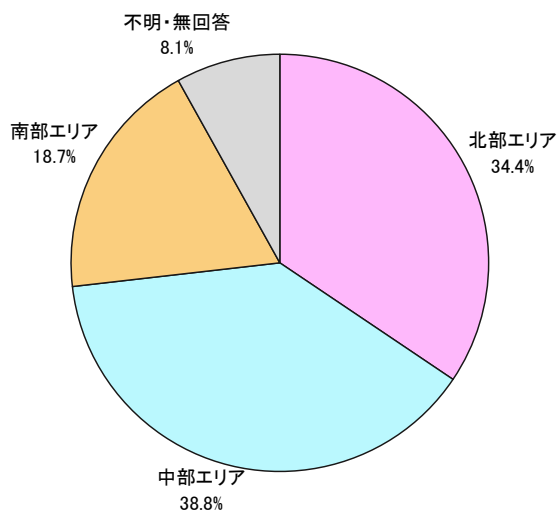
大人向けアンケート結果及び子ども向けアンケート結果のうち、計画改定に向けた基本的な考え方に関わるものについて、結果概要を示す。

4-1. 大人向けアンケート調査結果

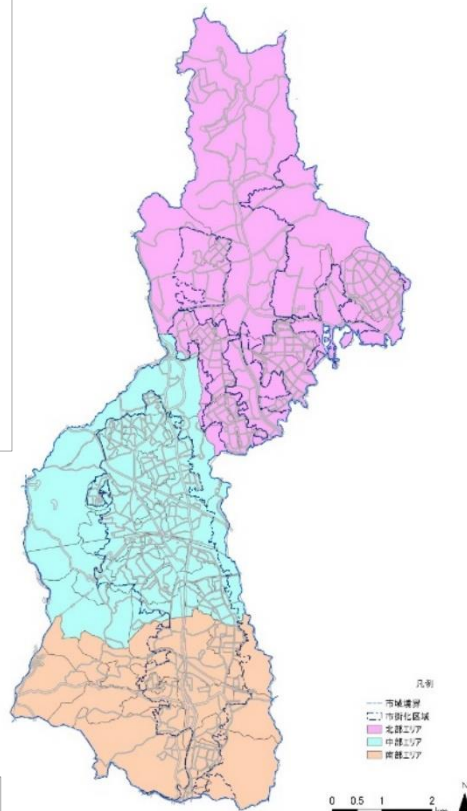
(1) 回答者属性



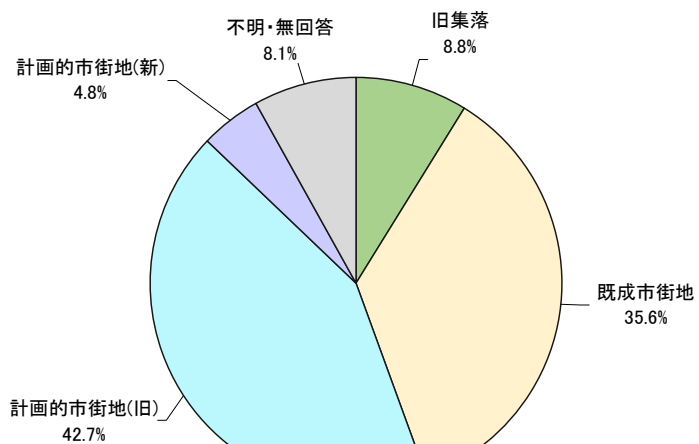
問7 お住まいの町名をお教えてください。(地域区分)



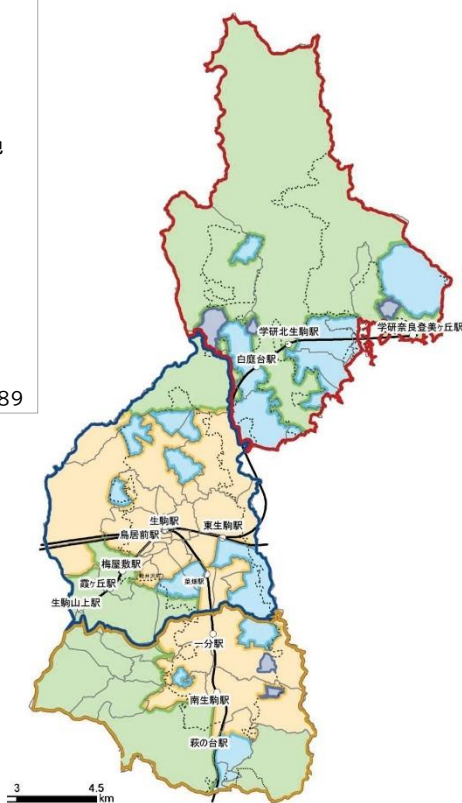
N=1,089



問7 お住まいの町名をお教えてください。(地域類型)



N=1,089

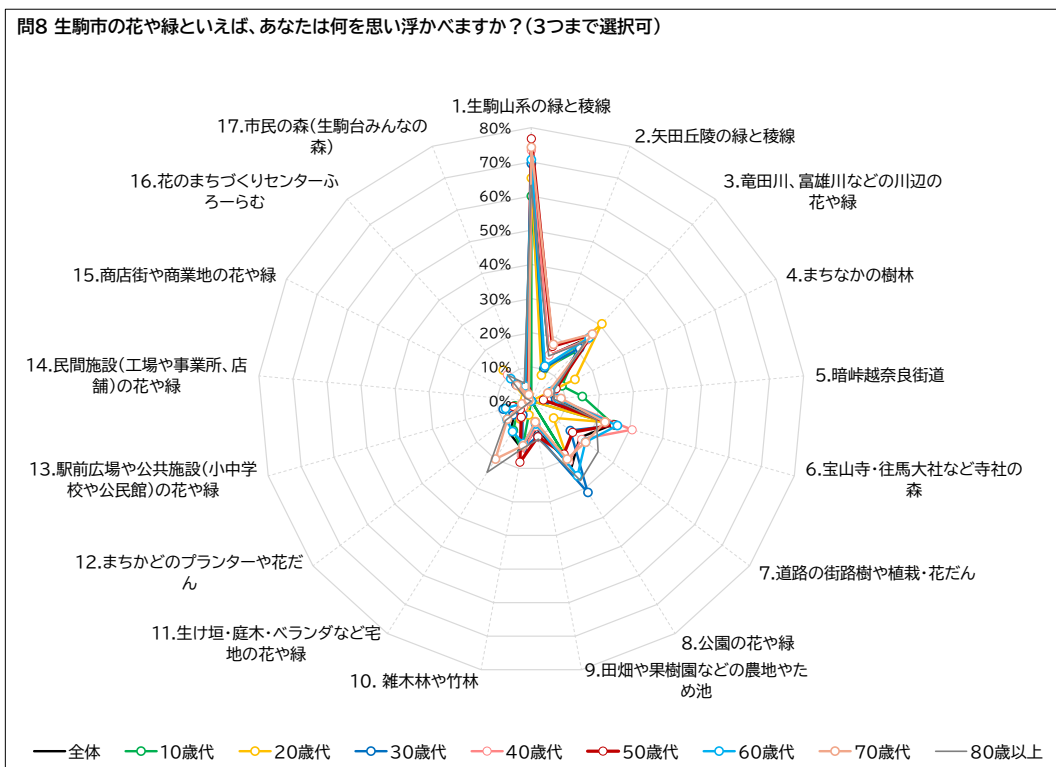
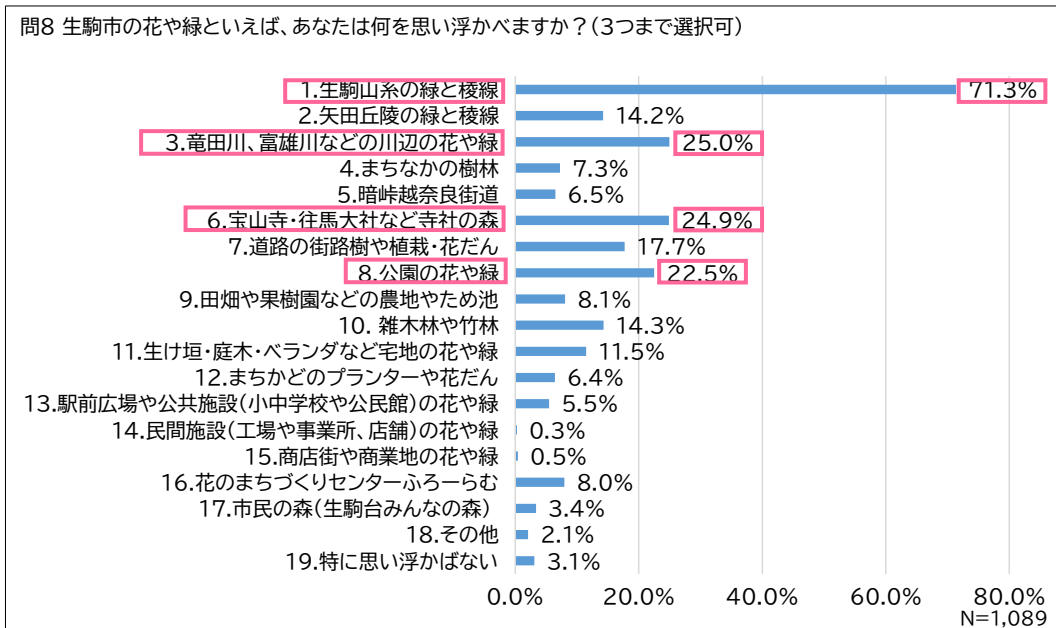


(2) 花や緑に対する印象について

■生駒市の緑や花として、思い浮かべるもの

- 「生駒山系の緑と稜線」が71.3%で突出して高い。次いで、「竜田川、富雄川などの川辺の花や緑」、「宝山寺・往馬大社など寺社の森」、「公園の花や緑」が続く。
- その他はどれも2割を切る状況。
- 年齢別の傾向をみると、どの年代においても「生駒山系の緑と稜線」が最も高い。他の項目では大きな傾向の違いはないが、30歳代で「公園の花や緑」が他の年齢層と比較してやや高い。

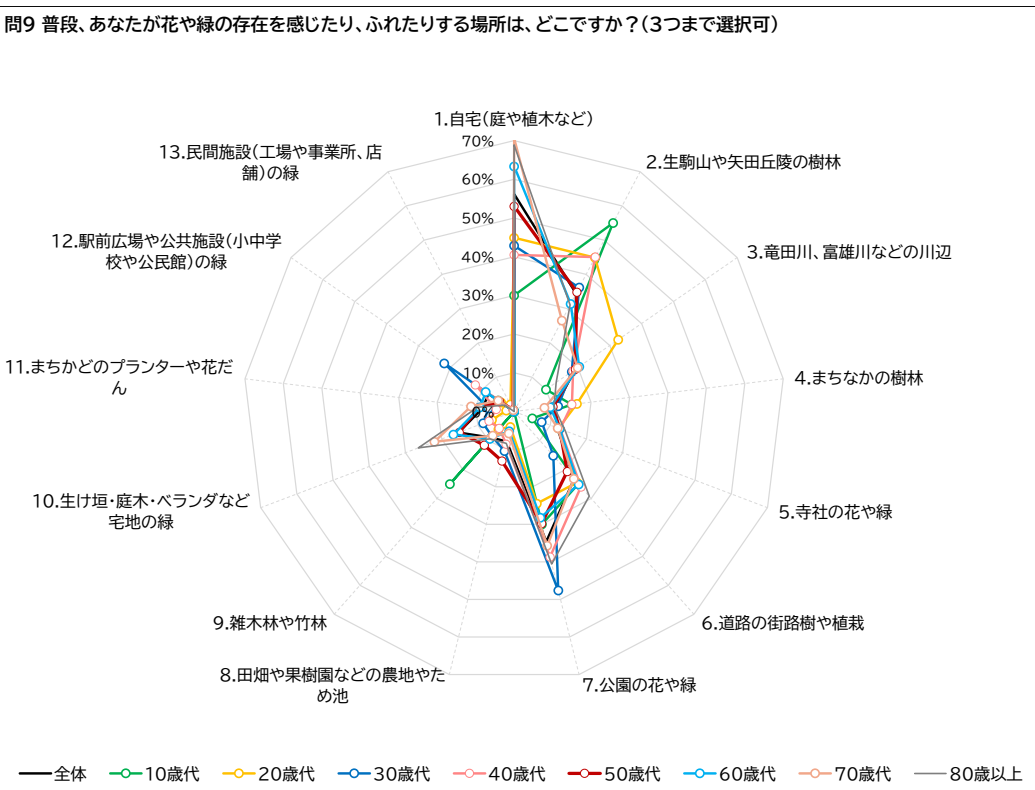
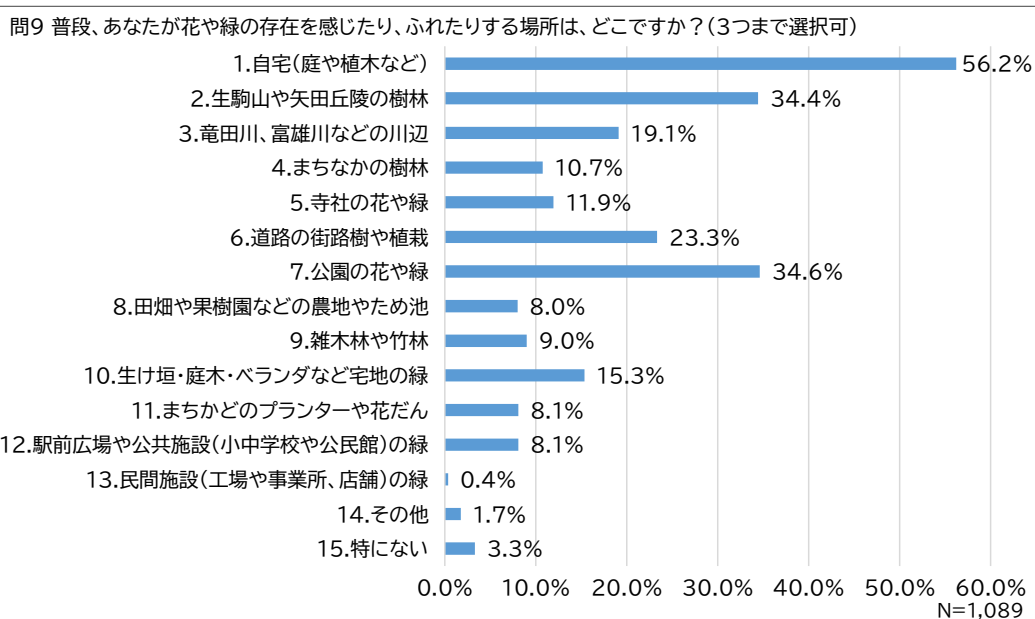
- どの年代にとっても生駒山系が突出して高く、次いで竜田川、富雄川といった本市の緑の骨格を形成する緑や、古くから存在する本市を代表する歴史的な緑が、本市の印象的な緑として認識されている。
- 上記以外の緑はどの項目も2割を下回る。これは、生活環境によって異なるか、あまり意識されていない緑があるためと考えられる。興味や生活スタイルに応じた発信方法・内容や、体験を伴うことにより、多様な緑を意識し、大切にしていける素地を育むことが期待できる。



■普段、花や緑の存在を感じたり、ふれたりする場所

- 「自宅(庭や植木など)」が56.2%と最も高く、次いで「生駒山や矢田丘陵の樹林」「公園の花や緑」がつづく。
- 年齢層別にみると、20 歳代では自宅よりも生駒山や矢田丘陵の樹林地や川辺などが高く、30 歳代では公園、駅前広場や公共施設の緑等が他の年齢層よりも高い。自宅は、50 歳代以上の高齢者層で高い割合となっている。

- 自宅で花や緑の存在を感じたり、ふれたりしている人が全体の5割以上となっており、市民生活の中で最も身近な場所で花や緑を実感している状況が伺える。
- 次いで生駒山や矢田丘陵の樹林地、公園の花や緑、道路の街路樹や植栽などが挙げられていることから、自然環境の保全や、公園や街路樹など市街地における緑の整備・維持管理が重要であることがうかがえる。
- 20 歳代、30 歳代といった若者世代では、他の年齢層と比較すると全体的に低い値だが、生駒山や矢田丘陵の樹林地、竜田川や富雄川などの川辺といった自然環境に対する割合が高く、これらの生駒市を代表する自然環境は若年層にとっても存在感のある緑であることがわかる。

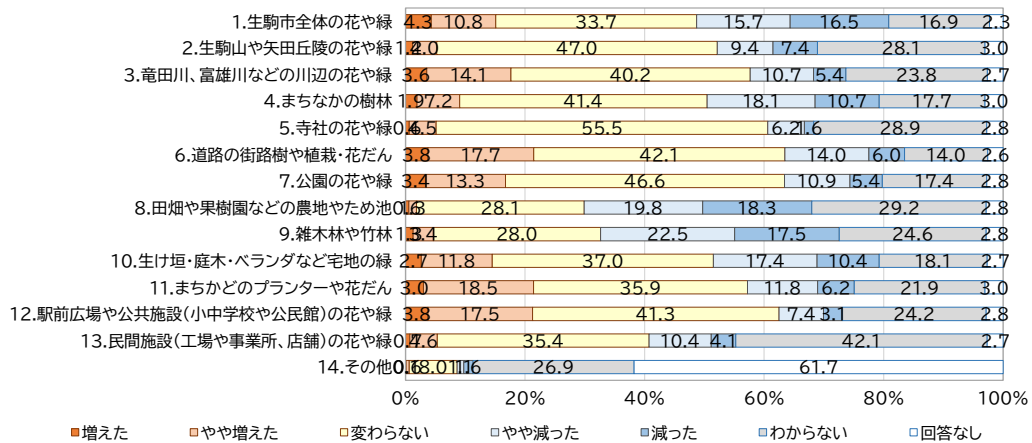


■増えた・減ったと思う花や緑

- 生駒市全体の花や緑は、「変わらない」が最も多い 33.7%だった。「増えた」「やや増えた」が約 15.1%、「減った」「やや減った」が約 32.2%となっている。
- 「道路の街路樹や植栽・花だん」「まちかどのプランターや花だん」「駅前広場や公共施設の花や緑」が「増えた」「やや増えた」と答えた人はそれぞれ 20%以上となっている。
- 一方で、「田畑や果樹園などの農地やため池」「雑木林や竹林」は「減った」「やや減った」と答えた人は 40%近い。

- 市全体の緑の量が「変わらない」のは、緑視率・緑被率が概ね横ばいである結果と一致する。緑視率は、増えた場所は徐々に生育し、減った場所は開発や建て替えによるため、「減った」がより印象に残っている可能性がある。
- 現行計画に基づいて実施してきた道路の街路樹の整備や維持管理、公共施設やまちなかでの花だんなどの花づくりは、緑が増加したと実感されている市民も一定確認できた。
- 農地や雑木林・竹林は、減少していると感じている割合が高い。

問10 ここ20年のあいだに、または生駒市内で暮らし始めた頃と比べて、生駒市の花や緑の量は増えたと思いますか？(みどりの種類ごとに、ひとつだけ“☑チェック”を付けてください。)



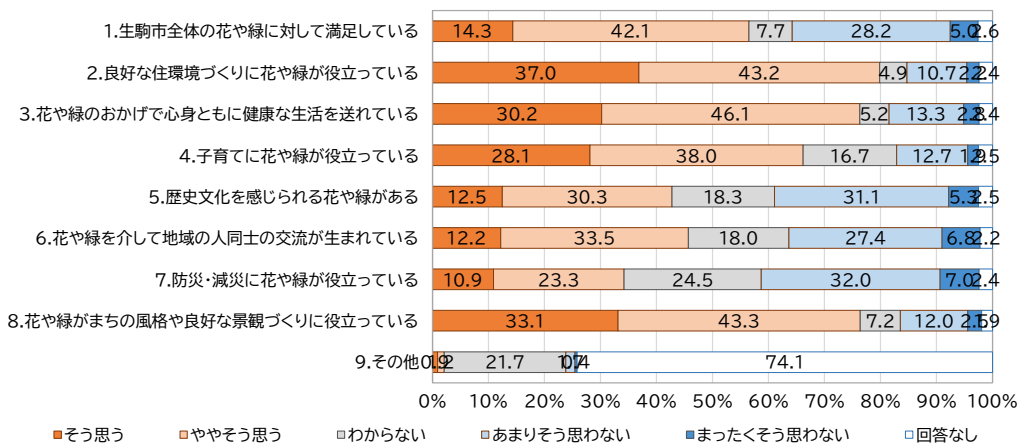
N=1,089

■花や緑に対する満足度、効果の実感

- 生駒市全体の花や緑に対して満足しているかについて「そう思う」「ややそう思う」と答えた市民が5割を越えている。
- 「良好な住環境づくり」や「心身の健康的な生活」、「子育て」、「良好な景観づくり」などで緑の効果を実感されている。

- 「良好な住環境づくり」や「まちの風格や良好な景観づくり」など、緑の存在効果に関する効果を実感されている。
- さらに、「心身ともに健康な生活を送れている」や「子育て」など、ウェルビーイングの向上につながる緑の波及効果に関する効果についても実感度合いが高い。
- 一方で、防災・減災や地域コミュニティ形成、歴史文化といった効果については実感度が低く、緑の効果として重要であるが実感されづらい効果であるため、発信方法や体感できる取組などの工夫が必要と考えられる。

問11.生駒市の花や緑について、あなたはどのように思いますか？(みどりの項目ごとに、ひとつだけ“☑チェック”を付けてください。)

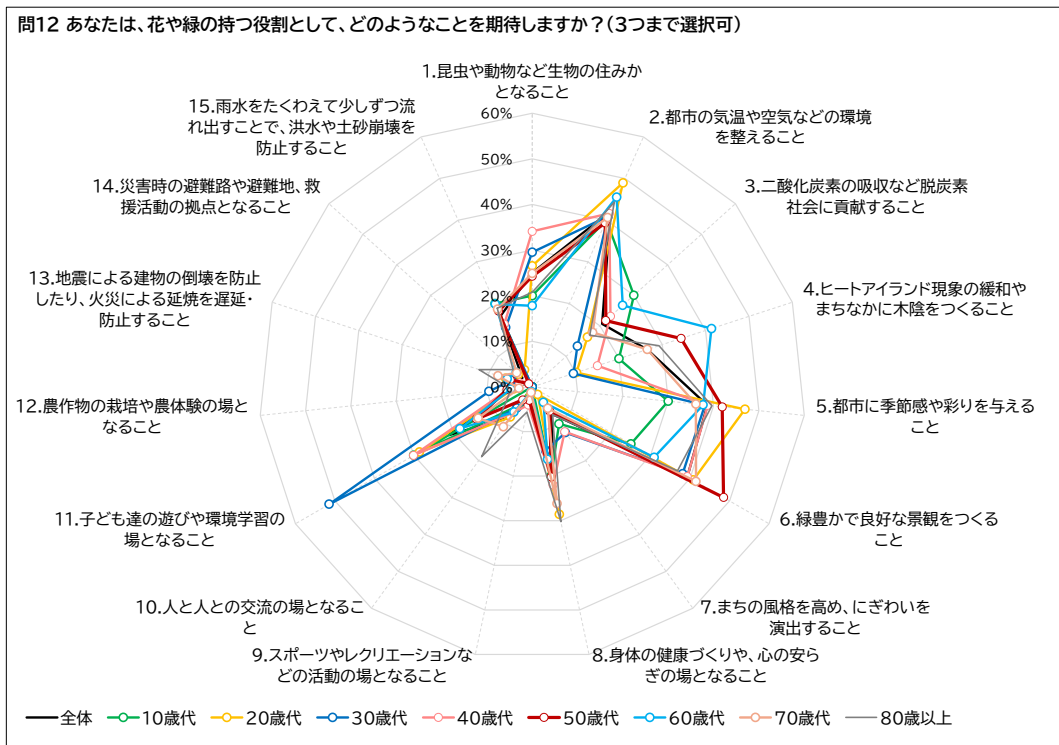
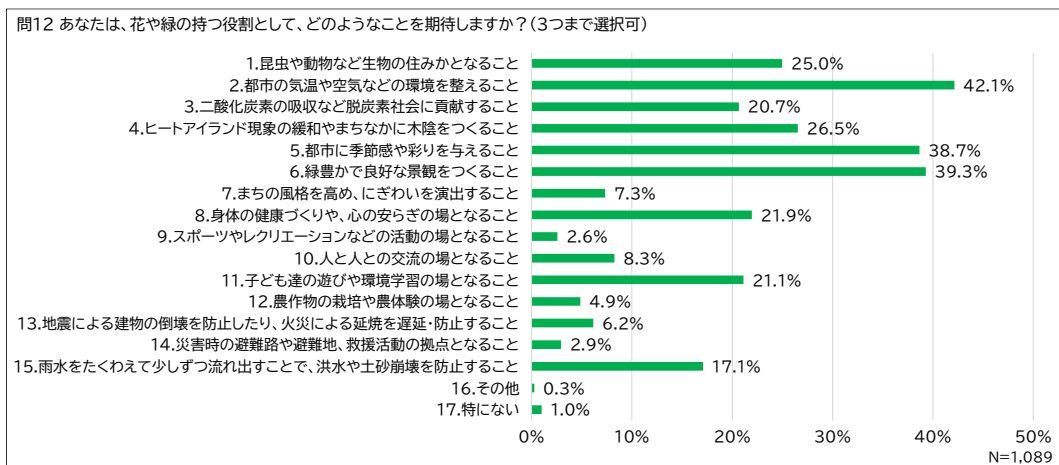


N=1,089

■花や緑に期待すること

- 「都市の気温や空気などの環境を整えること」が 42.1%で最も高く、次いで「都市に季節感や彩りを与えること」「緑豊で良好な景観をつくること」が 40%弱と続く。
- その他、生物の住みかとなること、ヒートアイランド現象の緩和、健康づくり、子ども達の遊びや環境学習などが 20%を越えている。
- 年齢層別にみると、子どもの遊びや環境学習については 30 歳代や 40 歳代、ヒートアイランド減少など熱環境の改善については 50 歳代や 60 歳代で特に高い結果となっている。

- 緑に対して幅広い役割が期待されており、特に都市環境の改善や都市の季節感、景観形成など、存在効果にかかわる役割が期待されていることが分かる。
- 30 歳代や 40 歳代といった主に子育て世代で構成される年齢層では緑の活用に関する期待が、50 歳代や 60 歳代では緑の存在効果に対して期待している割合が高い。このことから、緑の視点から若者世代に選ばれるまちとしての充実に向けては子育て層のニーズに対応した緑の活用が、長く定住してもらうためには環境調整や熱環境改善といった存在効果が発揮されるよう緑の維持管理が、それぞれ必要であることがわかる。



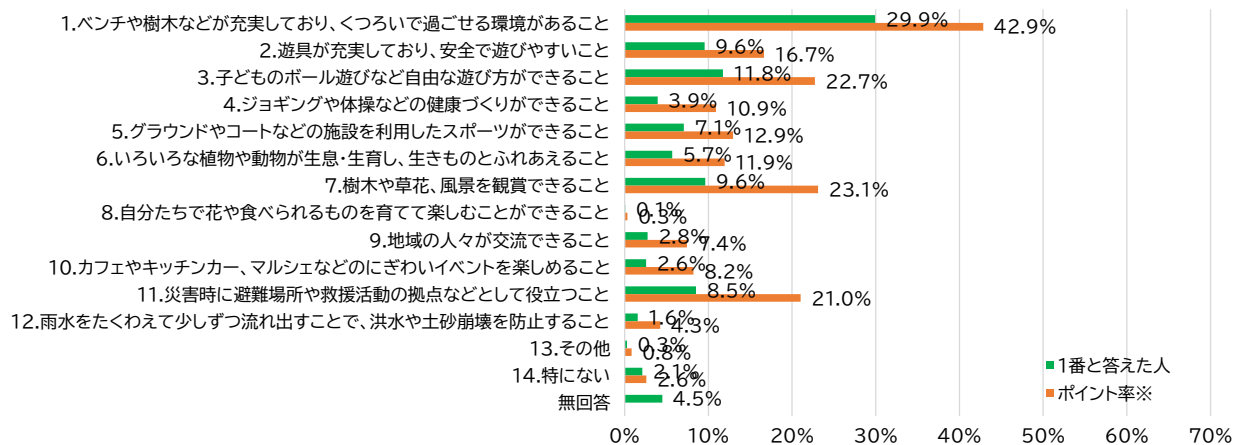
(3) 生駒市の公園について

■公園に期待すること

- 1番期待することでは、大きな公園、小さな公園どちらも「くつろいで過ごせる環境」が挙げられた。
- 2番、3番まで含めると、遊具遊び、自由な遊び、風景鑑賞、災害時の拠点などが比較的高い結果となっている。
- 年齢層別にみると、くつろいで過ごせる環境は40歳代以上で年齢層が高いほど高い値となっている。また、30歳代で遊具遊びの割合が突出して高い。

- 子どもの遊び場として期待する人に対して、くつろいで過ごせる環境として期待する人の割合は2倍近くとなっており、多くの市民が公園に対してくつろげる環境として期待していることが分かる。
- 年齢層ごとに公園に期待することが異なっていることから、既存公園の機能分担や使い分けなどにより多様なニーズへ対応することが求められる。

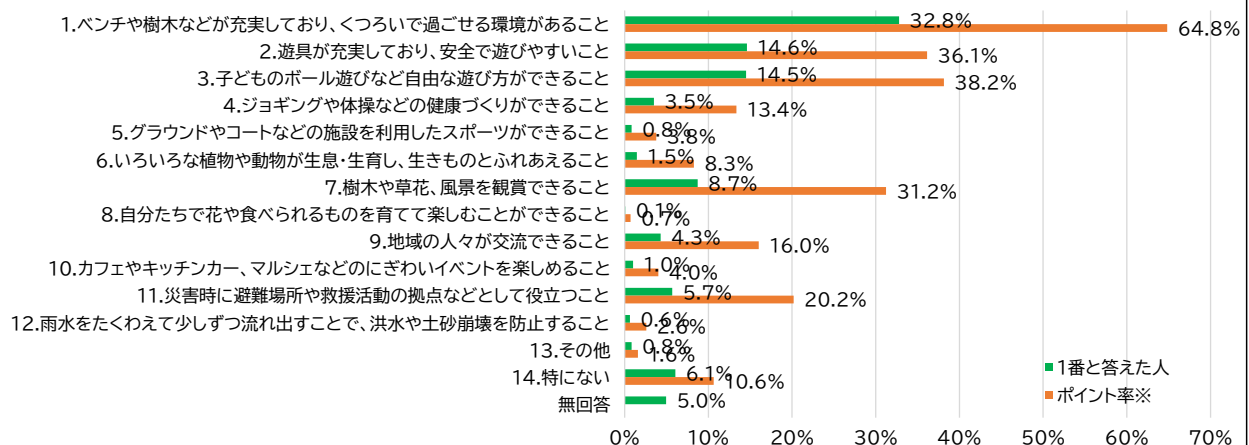
問13-1「A:大きな公園」について期待することは何ですか？(よくあてはまる順番に3つまで選択可)



※※「1番」を3点、「2番」を2点、「3番」を1点として合計した値を、全員が「1番」と答えた場合の最高点(3267点)に対する割合。

N=1,089

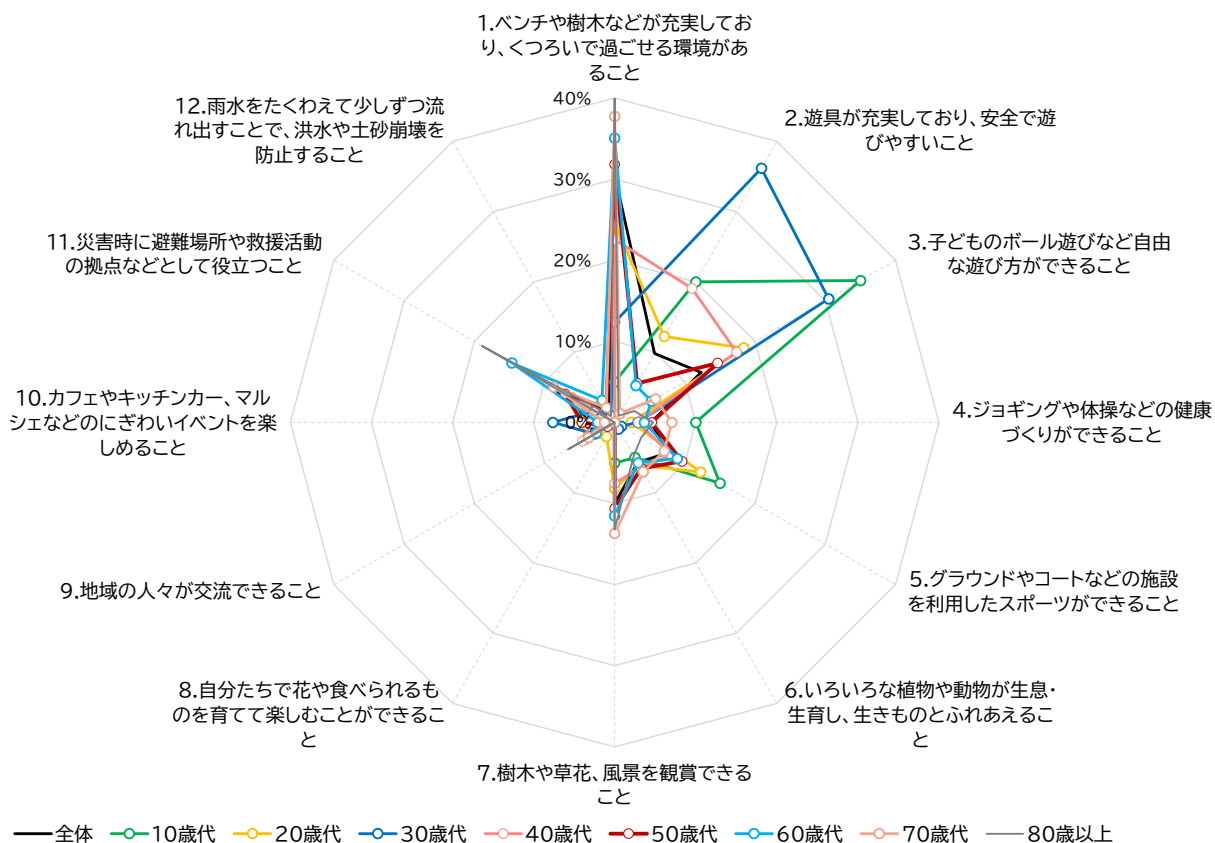
問14-1「A:小さな公園」について期待することは何ですか？(よくあてはまる順番に3つまで選択可)



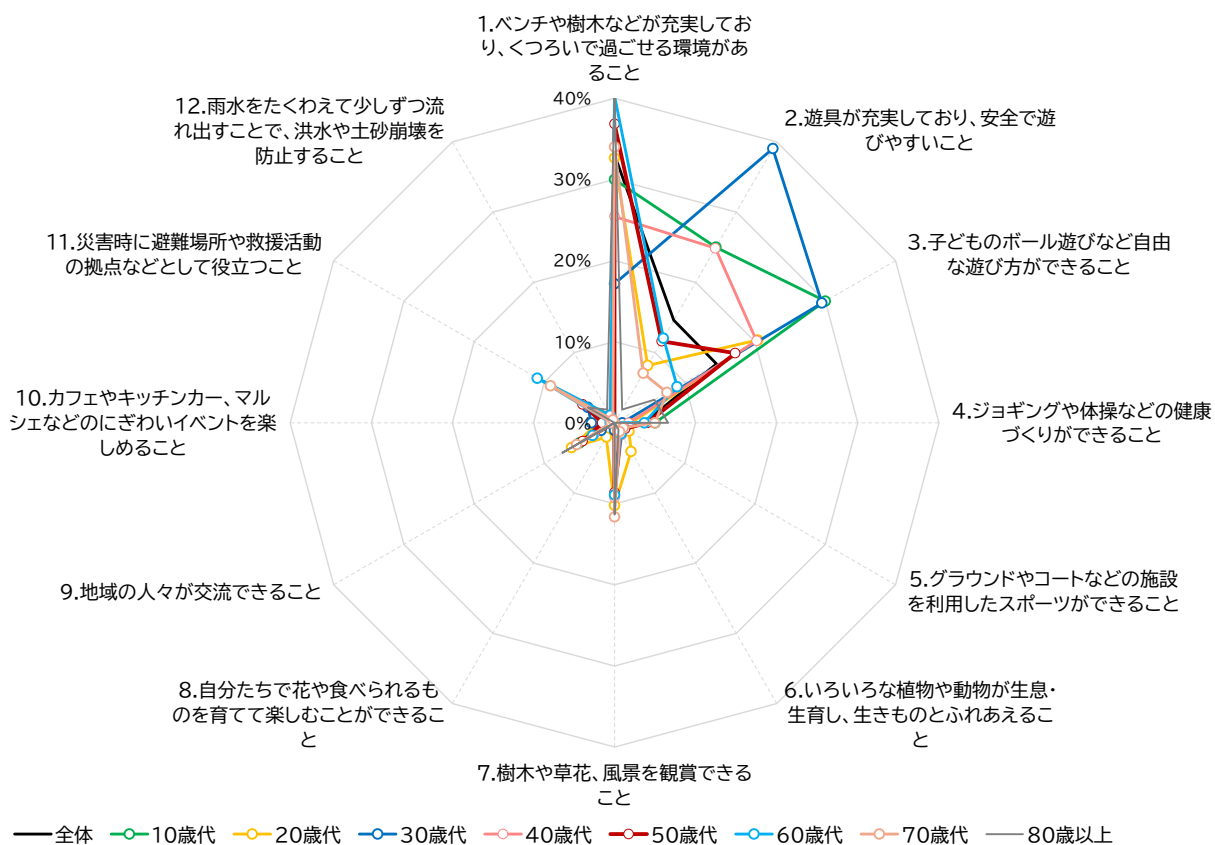
※※「1番」を3点、「2番」を2点、「3番」を1点として合計した値を、全員が「1番」と答えた場合の最高点(3267点)に対する割合。

N=1,089

問13-1「A:大きな公園」について期待することは何ですか？（よくあてはまる順番に3つまで選択可）



問14-1「B:小さな公園」について期待することは何ですか？（よくあてはまる順番に3つまで選択可）

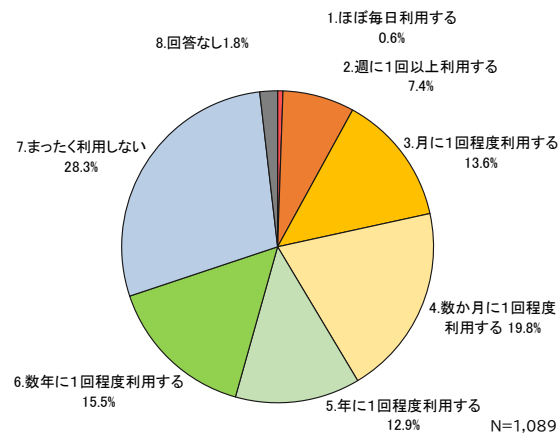


■公園の利用状況

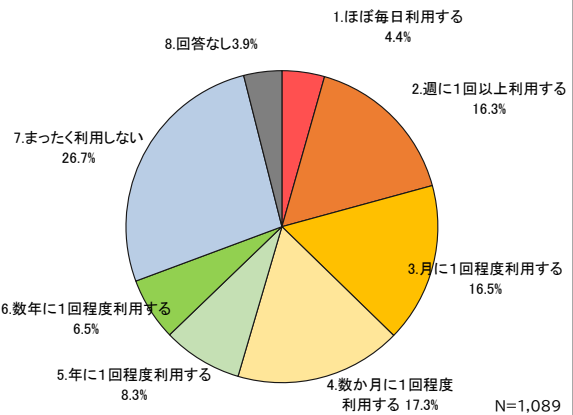
- 月1回以上利用している人は、大きな公園が約 21.6%、小さな公園が約 37.2%となっている
- 全く利用しない人は、大きな公園が約 28.3%、小さな公園が約 26.7%となっている。
- 利用目的は、大きな公園では自然や景観を楽しむことが 44.0%、小さな公園では休憩が 34.0%で高く、健康づくりはどちらの公園でも3割を超えている。

- 前述の公園への期待と合わせてみると、大きな公園では利用目的として休憩が2割弱に対して、くつろいで過ごせる環境への期待が 4 割を超えているなど、現状の利用状況と期待との間にギャップが生じている項目があることから、利用実態とニーズに着目した取組の展開が求められる。

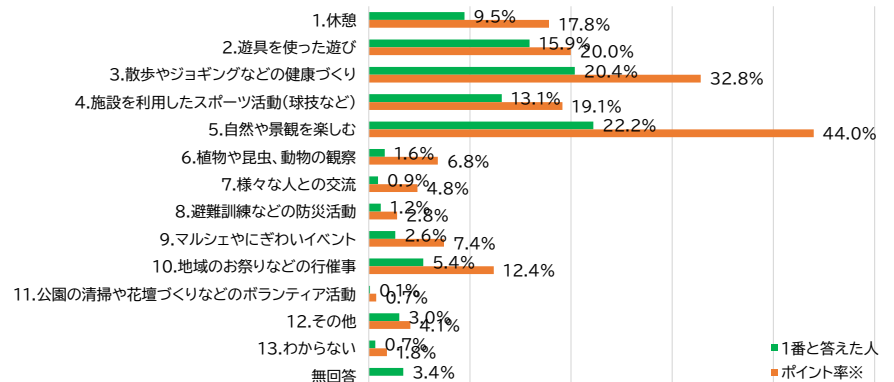
問13-2「A:大きな公園」の利用頻度をお教えてください。



問14-2「B:小さな公園」の利用頻度をお教えてください。(ひとつだけ選択)



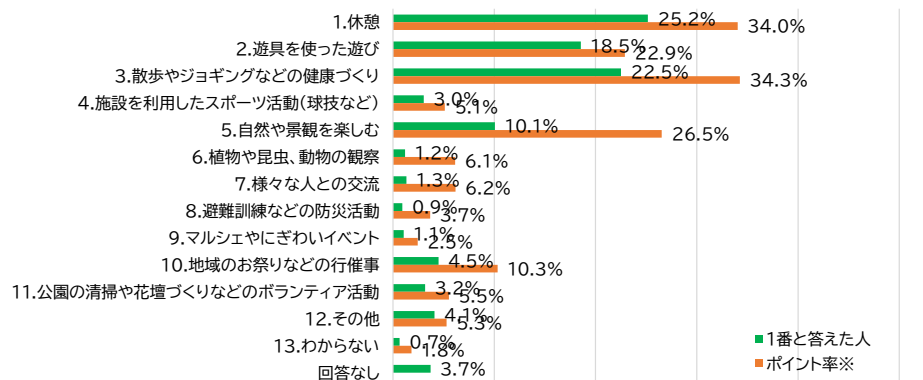
問13-3「A:大きな公園」の利用目的をお教えてください。(よくあてはまる順番に3つまで選択可)



※「1番」を3点、「2番」を2点、「3番」を1点として合計した値を、全員が「1番」と答えた場合の最高点に対する割合。

N=761

問14-3「B:小さな公園」の利用目的をお教えてください。(よくあてはまる順番に3つまで選択可)



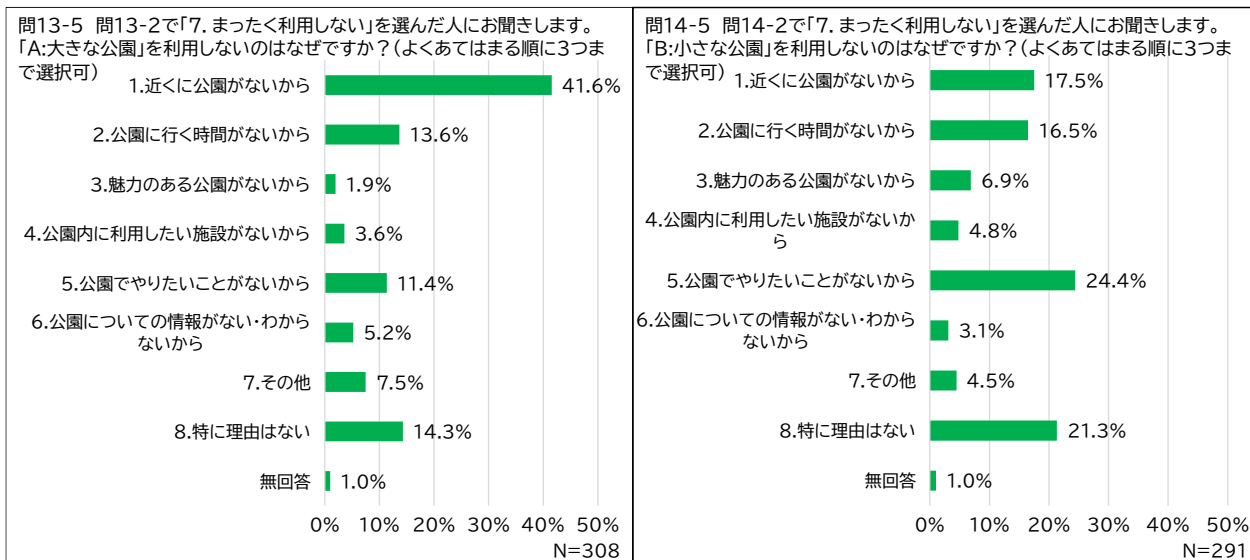
※「1番」を3点、「2番」を2点、「3番」を1点として合計した値を、全員が「1番」と答えた場合の最高点(3267点)に対する割合。

N=755

■公園を利用しない理由

- 大きな公園では「近くに公園がないから」が 41.6%、小さな公園では「公園でやりたいことがないから」が 24.4%でそれぞれ最も高い。
- 「特に理由はない」と回答した人も、大きな公園で 14.3%、小さな公園で 21.3%と一定数みられた。

- 市民生活の中で公園を利用するイメージが持てないことや、公園について無関心であることが、公園を利用しない理由として大きいと考えられる。市民のウェルビーイング向上に向け、本人が気づいていないニーズを叶える場所として、公園をはじめとしたオープンスペースをいかに活用できるかといった視点や取組が必要と考えられる。



※問 13-2：「A:大きな公園」の利用頻度をお教えてください。(ひとつだけ選択)

※問 14-2：「B:小さな公園」の利用頻度をお教えてください。(ひとつだけ選択)

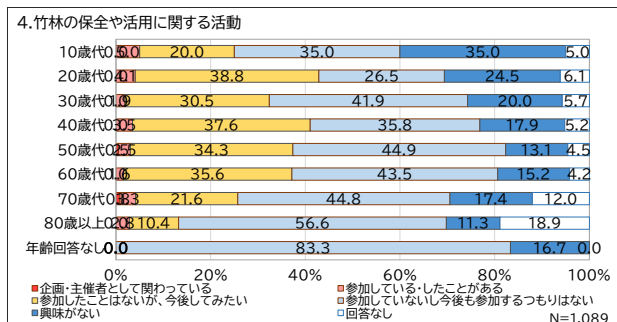
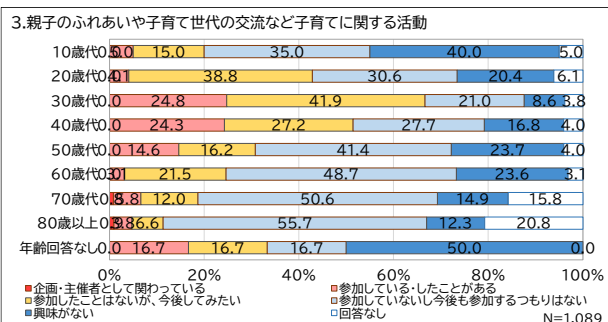
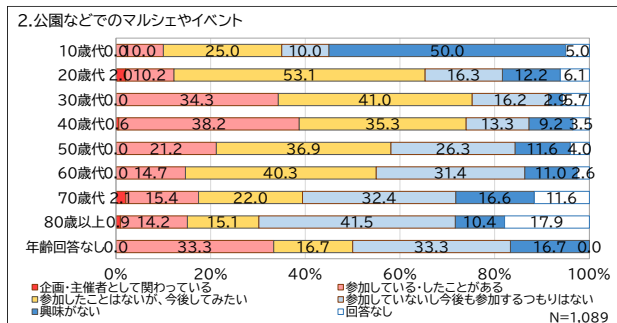
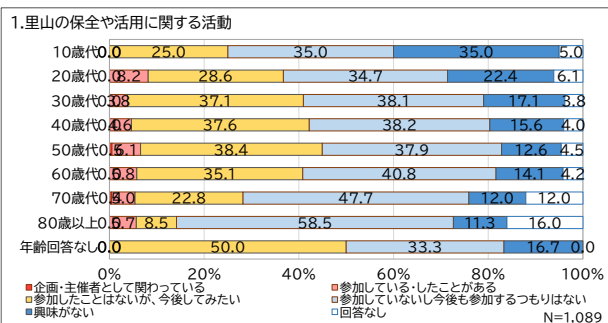
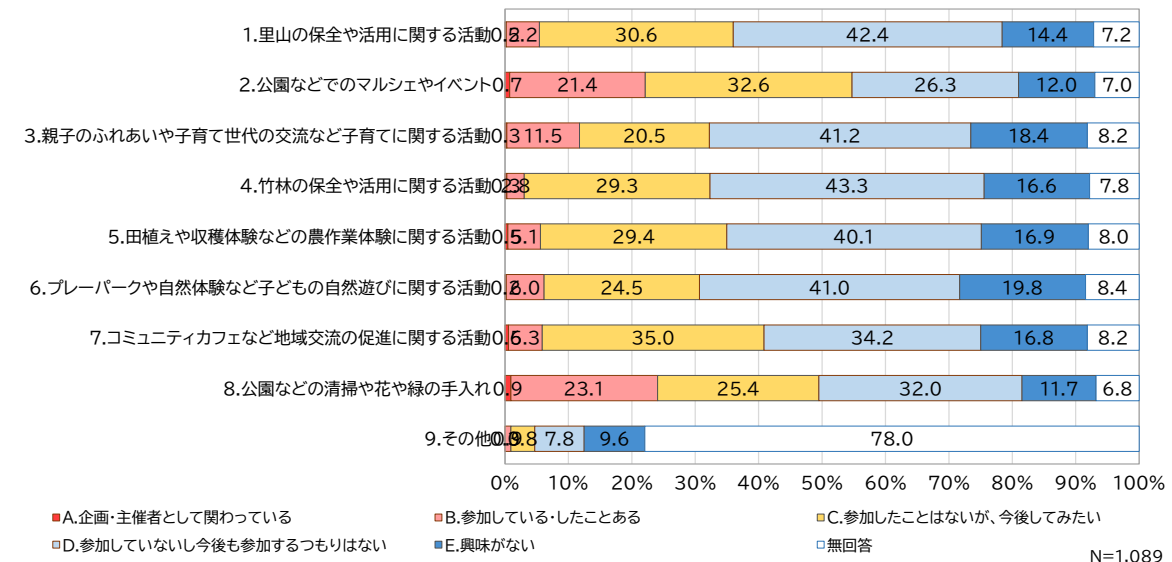
(3) 花や緑とのかかわりについて

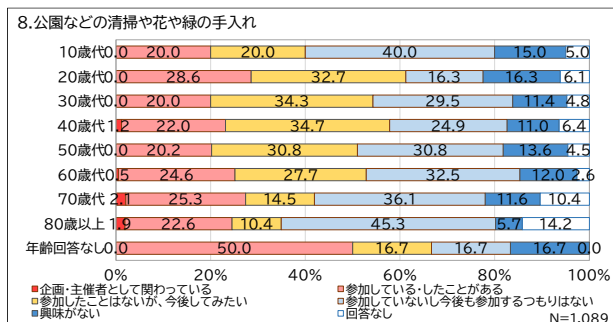
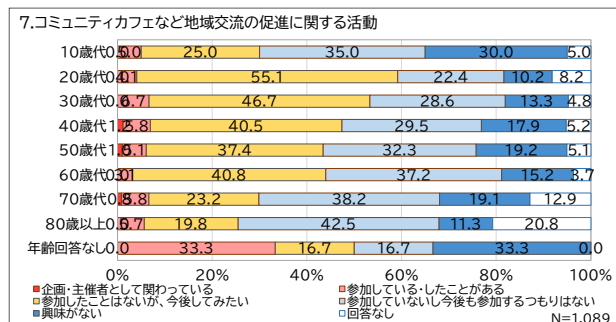
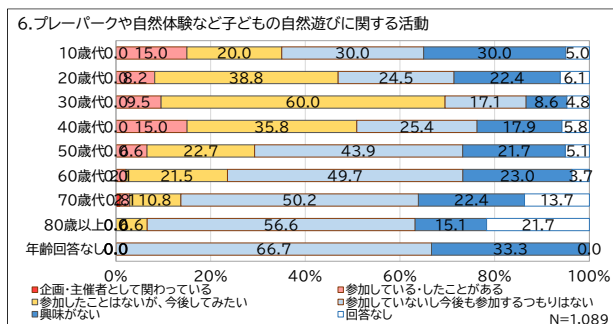
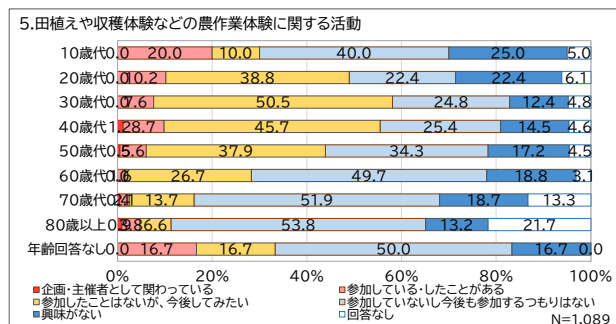
■花や緑に関わる活動への参加状況・参加意欲

- 参加状況では、「公園などでのマルシェやイベント」「公園などの清掃や花や緑の手入れ」が比較的高く、それぞれ20%以上となっている。
- 参加意欲としては、ほとんどの項目で約25～30%程度の人が参加意欲を示している。一方で、「参加するつもりはない」「興味がない」が半数以上を占める項目が多い。
- 年齢層別にみると、30歳代や40歳代では「公園でのマルシェやイベント」「子育て」に関する活動への参加状況・参加意欲が特に高く、「農作業体験」「子供の自然遊び」については参加実績は少ないが参加意欲が高い状況である。
- 「公園などの清掃や花や緑の手入れ」についてはどの年齢層においても「参加している・したことがある」と回答した人の割合が高く、参加意欲については年齢層が上がるにつれて低くなっている。

- 潜在的利用者層となる参加意欲のある人はどの項目でも一定数みられることから、活動への参加を後押しするような取組により、新たな参加者層となることが期待できる。
- 一方で、参加するつもりはない、興味がない、といった無関心層も多く存在しており、市民一人ひとりの緑への関心度合に応じた効果的なアプローチによって、市民自らによる緑への能動的なかわりをつくっていくことが求められる。

問15-1 あなたは生駒市で行われている様々な花や緑に関わる活動に参加していますか。(花や緑に関する活動ごとに、ひとつだけ「四チェック」を付けてください。)

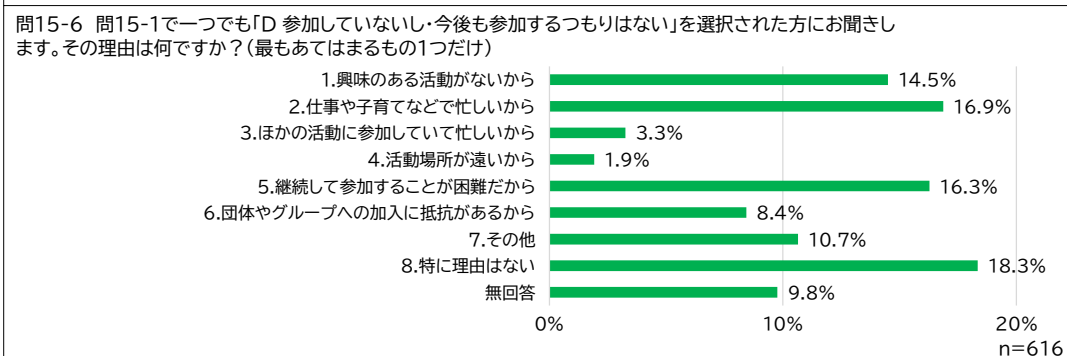
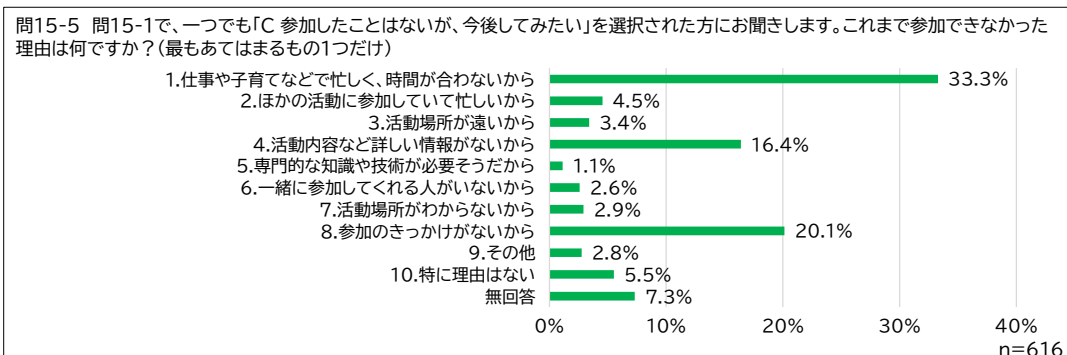




■これまで参加できなかった理由・参加するつもりはない理由

- これまで参加できなかった理由では、「仕事や子育てで忙しい」が33.3%で最も高く、次いで「参加のきっかけがないから」が20.1%、「活動内容など詳しい情報がないから」が16.4%となっている。
- 参加するつもりはない理由では、「特に理由はない」が18.3%で最も高く、次いで「仕事や子育てなどで忙しい」「継続して参加することが難しい」「興味のある活動がない」などがつづく。

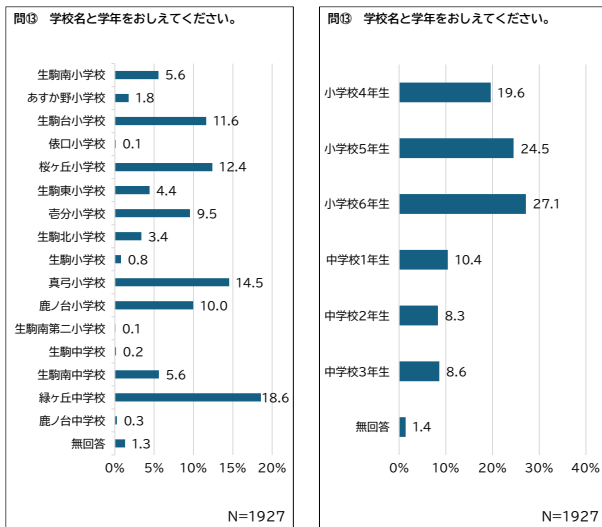
- 時間的制約や継続が困難といったことが大きな要因となっていることから、時間や回数などに縛られず、子育てや仕事などの生活の一貫として気軽に参加できる活動が求められている。
- 情報不足やきっかけがないことが参加できない理由として大きく、情報発信やきっかけづくりに関する取組はこれまで実施してきたものの、時代に応じた発信方法やきっかけとなるしくみづくりが求められる。
- 興味のある活動がない、特に理由がないといった人が多いことから、緑を自分の暮らしにかかわることと捉えてもらえるような働きかけや、市民一人ひとりの関心事に合わせた取組の展開が求められる。



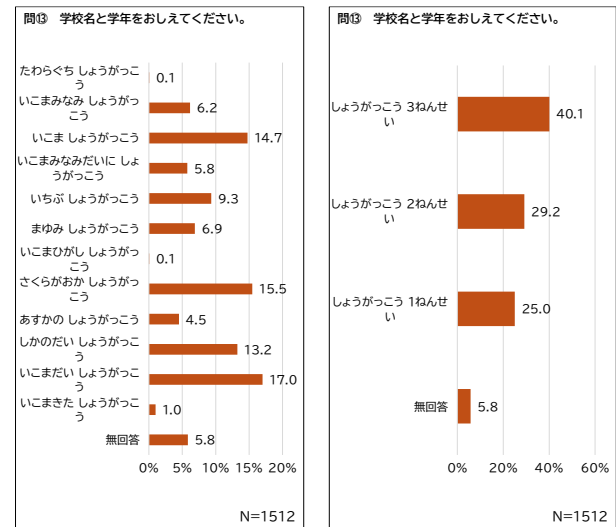
4-2. 子ども向けアンケート結果

(1) 属性

■小学校4～6年生、中学生



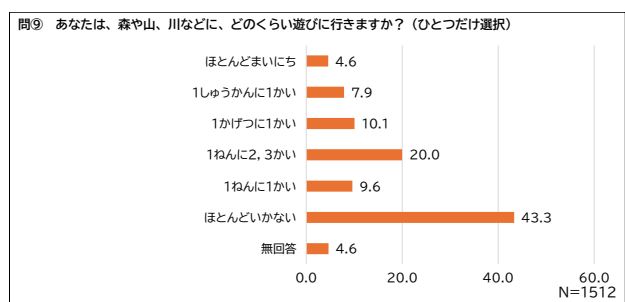
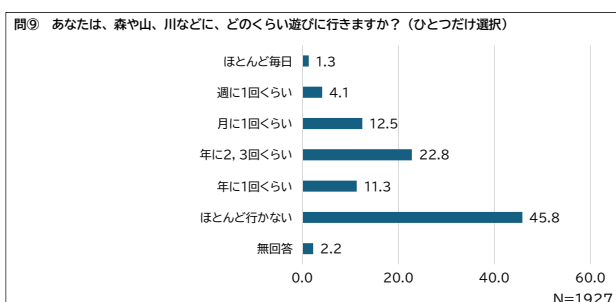
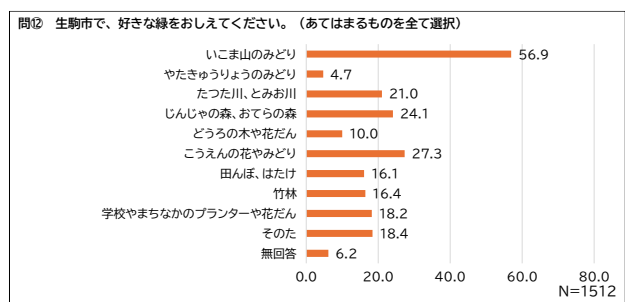
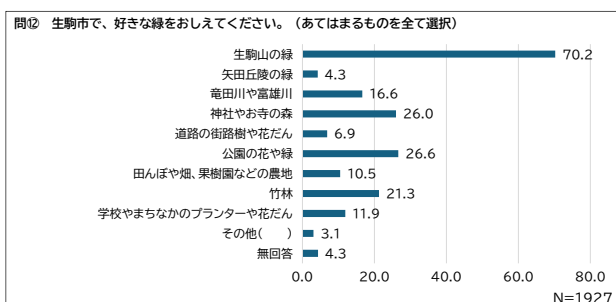
■小学校1～3年生

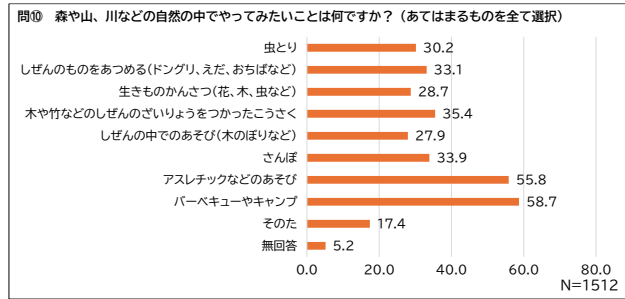
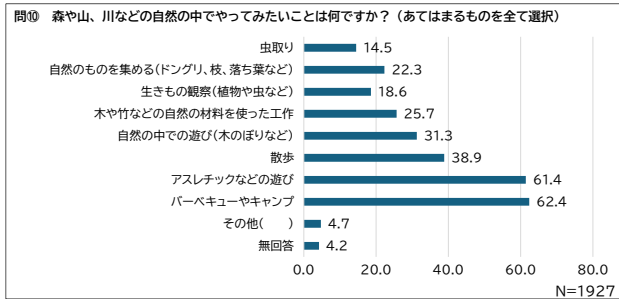


(2) 緑とのかかわり

- 好きな緑では、生駒山の緑が特に多く、高学年では 70.2%、低学年では 56.9%となっている。
- 森や山、川などに遊びに行く頻度について、比較的高頻度の「1か月に1回」以上と回答した子どもは2割前後にとどまり、「ほとんど行かない」と回答した子どもは 40%を超えている。
- 自然の中でやってみたいことでは、低学年、高学年ともにアスレチックやバーベキュー、キャンプといったアクティビティが人気である。また、低学年では、これら以外の項目についても3割前後がやってみたいと回答している。

- 大人向けアンケートと同様に生駒山の緑を好きな緑とする回答が特に多いことから、子どもから大人まで生駒市を象徴する緑として認識されていることがわかる。
- 森や山、川などに遊びに行く頻度が少ないことから、子ども達が自然とふれる機会が少ない状況と推察される。一方で、子ども達のニーズとしては遊びや学びの場として多様な自然環境の保全・活用、緑とふれあう機会の創出が求められる。
- 大人向けアンケート結果より、自然体験に関する活動への参加状況は低いのにに対して参加意欲は高いことから、親世代の緑とのかかわりが子ども達の緑とのかかわりにも影響していることがうかがえる。

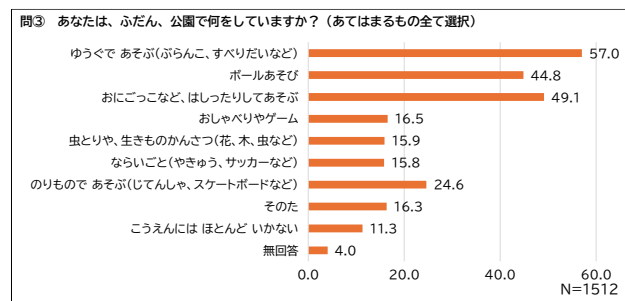
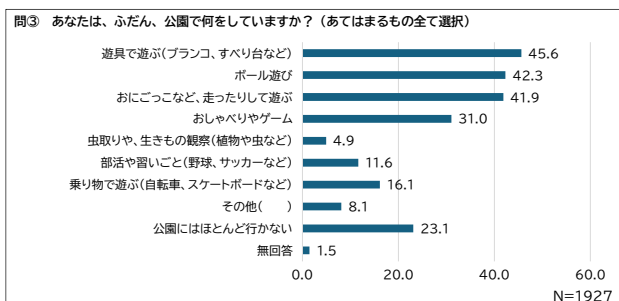
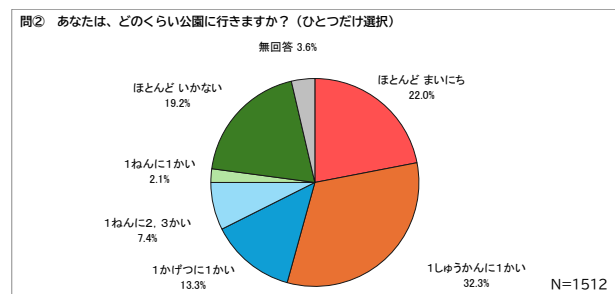
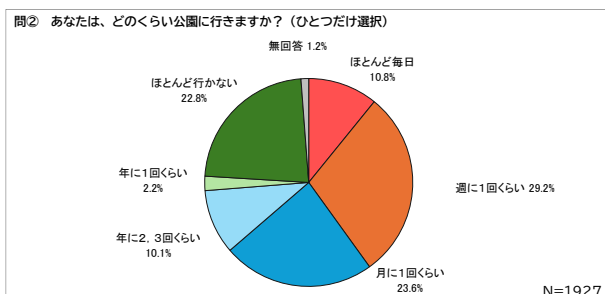
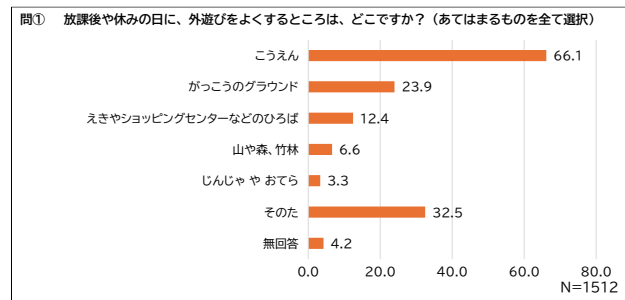
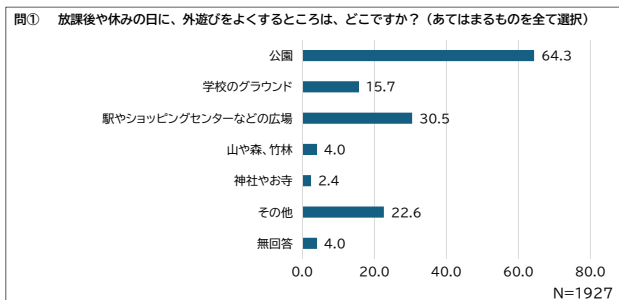




(3) 公園とのかかわり

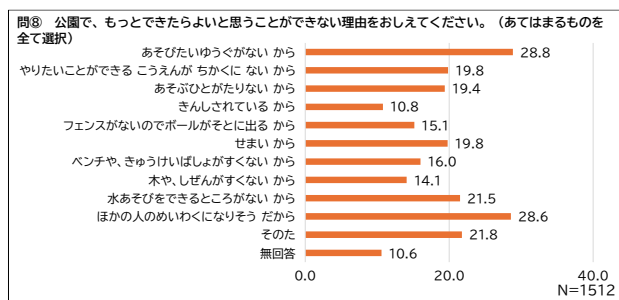
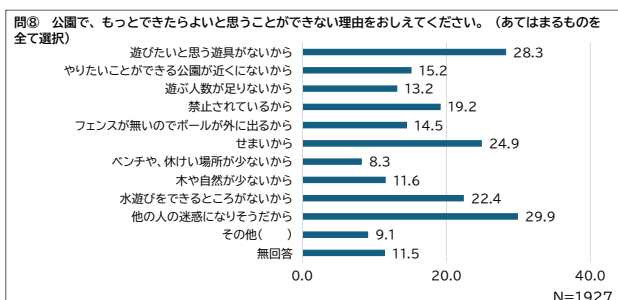
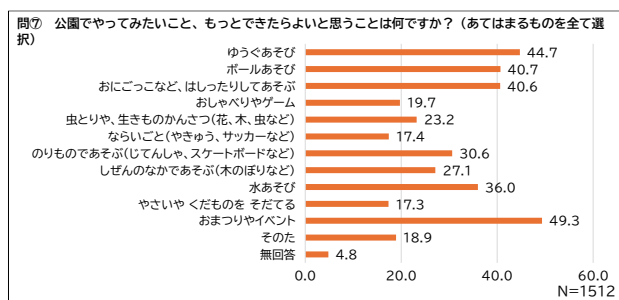
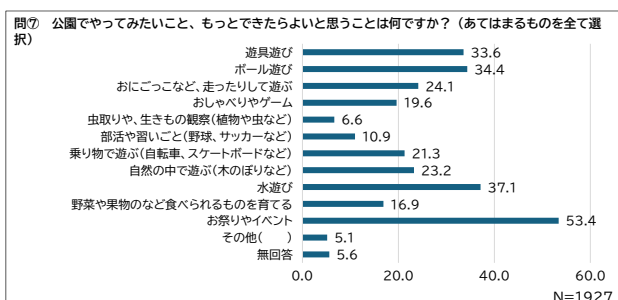
- 「よく外遊びををするところ」として、「公園」が最も多く、高学年、低学年ともに6割以上。
- 一週間に1回以上公園に行く子どもは、高学年では約 40%、低学年では約 55%となっており、ほとんど行かないと回答した子どもは高学年低学年ともに 20%前後となっている。
- 低学年では、遊具やボール遊び、走り回る遊びの割合が高い。高学年でも同様の傾向であるが、おしゃべりやゲームの割合が高く、虫取りや生物観察の割合は低い。

- 公園は、多くの子どもにとって外遊びの場所として利用されている。
- 年齢層ごとに公園の利用頻度、利用内容は異なっている。



- 公園でできたらよいと思うことでは、お祭りやイベントが約 50%で最も高く、次いで遊具遊びやボール遊び、走り回る遊びなどが続く。
- 低学年では、高学年と比べて「虫取りや生きものの観察」が 23.2%と高くなっている。
- もっと出来たらよいと思うことができない理由では、「ほかの人の迷惑になりそうだから」や「遊びたいと思う遊具がないから」と回答した子どもが約 30%弱で多い。

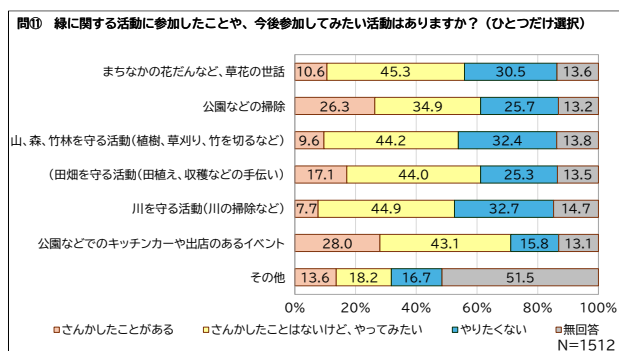
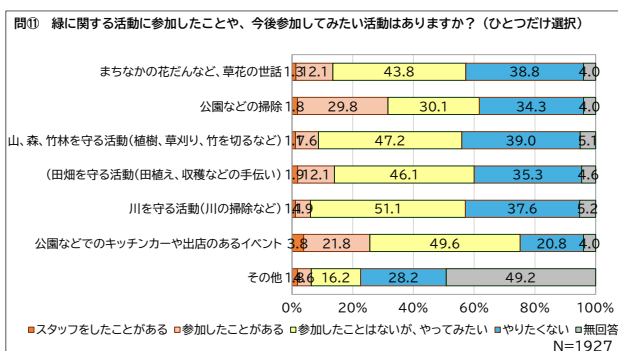
- お祭りやイベントなどの非日常体験を公園でできることが望まれているとともに、遊びやすい環境が求められていることがわかる。
- よりのびのびと遊びたいという思いがある中で、制約を感じながら遊んでいる状況がうかがえる。
- 年齢層ごとの遊びの違い、多様な遊びへのニーズに対応するため、既存公園での遊びの機能分担やマネジメントにより子ども達が利用しやすい公園づくりが求められる。



(4) 活動への参加状況・参加意欲

- どの項目においても、「参加したことがある」「参加したことはないがやってみたい」は半数を越えており、多くの子どもが参加意欲を示している。
- 参加状況については、低学年、高学年ともに「公園などの清掃」「公園などでのキッチンカーや出店のあるイベント」が高く、「草花の世話」や「山、森、竹林を守る活動」「田畑を守る活動」「川を守る活動」といった自然環境にふれる活動についてはやや低い。
- 「やりたくない」と回答した子どもは、低学年が 25～30%程度に対し、高学年では 30～40%程度とやや高い。

- 「山、森、竹林を守る活動」「田畑を守る活動」「川を守る活動」といった緑の保全にかかわる活動について、参加したことがある子どもが少ない一方で参加意欲は4割以上と高い状況となっている。これに対して、大人向けアンケート結果では、30～40 歳代の子育て世代における里山の保全や活用、竹林の保全や活用、農業体験など自然環境にかかわる活動への参加状況は約1割程度と比較的低い状況であることから、親世代の参加状況が子ども達の参加状況に影響していると推察される。



5. 今後の分析の視点

具体的な取組や目標指標等、今後の検討に向けて、以下の視点により、今後詳細な分析を実施予定。

（１）生駒市民は、どのような緑に対して満足し、効果を実感しているか？

満足度や効果の実感に影響している要因は何か？

年齢層や地域による緑への満足度の違い、実感されている緑の効果の違いなどについて把握し、市民のライフステージや地域ごとに求められる取組の検討にいかす。

また、緑への満足度を高めたり、緑の効果をより発揮させて市民実感として緑の効果を感じてもらえるようにするために必要な取組の検討にいかす。

分析例)	問 11 花や緑に対する満足度、実感している効果
×	
問 1 年齢層	問 7 居住地（地域）
問 9 普段、花や緑の存在を感じたり、ふれたりする場所	
問 13-2、問 14-2 公園の利用頻度	問 15-1 緑に関する活動への参加状況、参加意欲、興味

（２）生駒市民の公園の利用状況および公園に対するニーズ（不満や期待）は？

ライフスタイル（年齢層や地域）による公園とのかかわりやニーズの違いは？

年齢層や地域による公園の利用状況やニーズについて把握し、市民のライフステージや地域ごとに求められる、公園での取組の検討にいかす。

分析例)	【公園の利用状況】	分析例)	【公園への期待や不満】
問 13-2、問 14-2 公園の利用頻度		問 13-1、14-1 公園に期待すること	
問 13-3、問 14-3 公園の利用目的		問 13-5、14-5 公園を利用しない理由	
問 13-4、問 14-4 よく利用する公園		問 13-6、14-6 公園に対する不満	
×		×	
問 1 年齢層	問 7 居住地（地域）	問 1 年齢層	問 7 居住地（地域）

（３）地域別分析

①北部地域・中部地域・南部地域

⇒各流域の緑の特徴も踏まえながら、地域別ごとのニーズ、緑との関わりの違い等について分析。

②地域類型（既成市街地、旧集落、計画的市街地（新・旧ニュータウン））

⇒市民のライフスタイルの違いと最も関連があると考えられる市街地タイプの違いによる市民ニーズ、緑との関わりの違い等について分析。

（３）今後、緑にかかわる活動に参加意欲のある市民や無意識・無関心層（潜在的な参加者層）が緑とかかわるきっかけとなりうる要素は何か？

無関心層が緑とのかかわりが生まれる可能性や、潜在的参加者層が参加に一步踏み出すためのきっかけとなりうるものは何かなどについて分析。

分析例)	問 15-1 活動への参加状況、参加意欲、興味
×	
問 8 生駒市の花や緑で思い浮かべるもの	
問 9 普段、花や緑の存在を感じたり、ふれたりする場所	
問 11 花や緑に対する満足度、実感している効果	問 12 花や緑の役割として期待すること

※「市民のライフスタイルや価値観別分析」に類する分析について

□回答者属性によるライフスタイルの推察

回答者属性（年齢層、お住まいの地域、世帯構成、子有り無し、職業等）からライフスタイルを推察し、各市民層のニーズや活動への参加状況、参加意欲、興味について確認する。

□無関心層（花や緑に興味がない人）の把握

⇒現在、緑との関わりがないライフスタイルを送っている市民がどの程度いるか。

□無関心層に対するポジティブチェック（緑とかかわりが生まれる可能性）

⇒無関心層が、どのような緑、活動に興味があるか。

□緑に関する活動に参加していない人に対するネガティブチェック（参加していない具体的な理由）、ポジティブチェック（参加してもらえる可能性）

⇒潜在的参加者層が、参加に一步踏み出すためのきっかけとなりうるものは何か。

（５）公園の利用圏域の把握

- 居住地とよく利用する公園の関係から、公園の利用圏域の実態について分析。
 - 子ども向けアンケート結果より、小学校区内でよく遊びに行く公園と、小学校区を越えて遊びに行く公園を把握。
- ⇒大人、子ども、それぞれについて公園の利用圏域を把握し、今後公園の機能分担や再編を検討する際などに参考とする。